

令和8年産 コメ通信

第2号（令和8年4月10日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

適切な管理で健康な苗作りを！

1 適切な種子予措

例年よりも気温が高くなる予報です。芽を伸ばし過ぎることのないよう、浸種や催芽の注意点を再確認しましょう。また、ばか苗病等の万全な防除を実施しましょう。

【浸種】

- 浸種時の水温は10～15℃を確保するように努め、水量は種籾1kgあたり3.5Lを目安とします。
- 種子消毒剤の効果を高めるため、浸種期間中の水交換は2～3回程度とします。
- 種子伝染性病害の感染を防ぐため、品種や消毒方法の異なる籾は同じ容器で浸種しないでください。

【催芽】

- 催芽は、発芽を揃えるために30～32℃で行います。
- 芽を伸ばし過ぎると播きムラにつながるため、芽の長さはハト胸程度にします。発芽程度を確認してから催芽を終了してください。

【環境衛生】

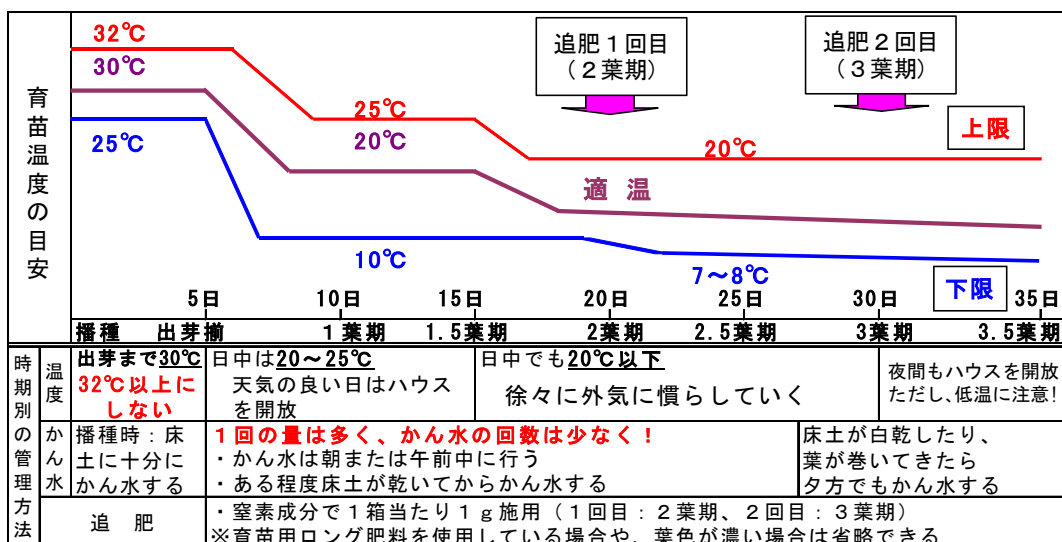
- 周辺からの病原菌の侵入を防ぐため、種子予措を行う作業場所やその周辺を十分に清掃し、浸種・催芽時は容器にふたをしましょう。
- 種子予措に使う容器等は、使用前に加え品種や消毒方法が変わるごとに洗浄します。

2 育苗期間の管理

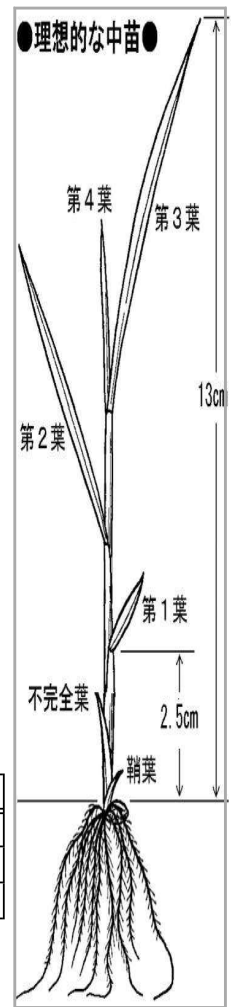
出芽後の温度管理は、苗の生育や田植え時の苗質に大きく影響します。また、育苗中の急激な温度変化は、病害や生育障害の発生を助長します。向こう1か月の平均気温は高い確率80%（仙台管区気象台：4月2日発表）の予報が出ています。

昨年、被覆時のハウス内温度の上昇により出芽不良が多く見られました。被覆除去前でも高温時はハウスを開放するようにしましょう。

【管理のポイント】中苗の場合



- 出芽長は、0.5 cm程度を目標とします。伸ばしすぎると、その後の葉数展開が遅れ、徒長気味の苗になるため注意します。
- 出芽揃い後は速やかに被覆資材を除去します。出芽後の再被覆はもみ枯細菌病等の発生を助長するため、行いません。
- 通気管理は通常1葉期頃から行い、1.5葉期以降は徐々に外気へ慣らします。移植1週間前頃からは、低温日でない限り夜間もハウスを開放して外気に当て、硬い苗に育てます。
- 追肥を行う場合は、窒素成分で箱当たり1g（2葉期と3葉期頃）施用します。追肥した後は、かん水して苗に付着した肥料を洗い流します（注：ロング入り肥料の場合は追肥は不要です）。



3 いもち病の防除対策

育苗期のいもち病防除は、本田での発病を防ぐ基本です。昨年、管内でのいもち病の発生が多かったため、越冬伝染量がやや多いと考えられます。育苗ハウスやその周辺の稲わら・籾殻を撤去し、表1を参考に苗いもちや葉いもち防除を適切に行ってください。育苗箱施用剤では育苗期に発生するいもち病を防ぐことはできません。なお、ベンレート水和剤の播種時処理は、種子消毒に使用するタフブロックまたはエコホープD J（生物農薬）の防除効果を低下させるため、体系処理は行いません。

表1. 育苗期のいもち防除剤(苗いもち防除).

薬剤名	処理時期	希釈倍数	散布量
ベンレート水和剤	播種時～播種14日後(かん注)	500倍	500 mL/箱
	播種時～播種7日後頃(かん注)	1,000倍	1,000 mL/箱
ビームゾル	緑化始期(かん注)	500倍	500 mL/箱

4 苗立枯病の防除対策

○耕種的防除対策として、清潔な資材を使用するなど、育苗施設の衛生を保ち、栽培基準に基づいた適切な温度と水の管理を行います。

表2 苗立枯病の防除剤

使用時期	農薬名	使用量・希釈倍率	散布液量(箱あたり)	ピシウム菌	フザリウム菌	リゾプス菌	トリコデルマ菌	リゾクトニア菌	白絹病菌
播種前	オラルク粉剤	10～15g/箱	—	○					
	タチガレエースM粉剤	6～8g/箱	—	○	○				
	ナエファイン粉剤	6～8g/箱	—	○	○	○			
播種時	オラルク顆粒水和剤	4,000倍	500mL	○					
	オラルク顆粒水和剤	8,000倍	1,000mL	○					
	ダコニール1000	500～1,000倍	500mL			○			
	ダコレート水和剤	400～600倍	500mL		○	○	○		
	タチガレエースM液剤	1,000倍	500mL	○	○				
	タチガレエースM液剤	1,000倍	1,000mL	○	○				
	ナエファインフロアブル	1,000倍	500mL	○	○	○			
	ナエファインフロアブル	2,000倍	1,000mL	○	○	○			
	ベンレート水和剤	500倍	500mL		○		○		
	ベンレート水和剤	1,000倍	1,000mL		○		○		
出芽後	ランマンフロアブル	1,000倍	500mL	○					
	タチガレエースM液剤	500倍	500mL	○	○				
	タチガレエースM液剤	1,000倍	500mL	○					
	ナエファインフロアブル	2,000倍	500mL	○					
	バリダシン液剤5	1,000倍	500mL					○	○
	ランマンフロアブル	1,000倍	500mL	○					

リゾプス菌

種籾層に白い綿毛のようなカビ

根は短く、先端は膨らんでいる

フザリウム菌

籾を中心に白色～淡紅色のカビ

根も褐変

ピシウム菌

地際部が褐色で水浸状となっている

地際部にカビは認められない

トリコデルマ菌

かさぶた状のカビ

根は短く数も少ない

リゾクトニア菌

クモの巣状の菌糸

白色～淡褐色の小さい菌核

農作業事故に注意！！
 毎年、農作業中の事故により多くの方が亡くなっています。特に、農繁期となるこの時期は事故が多くなります。忙しい時こそ安全確認を徹底しましょう。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は5月上旬頃～